



会報 JAMT

JAPANESE ASSOCIATION OF MEDICAL TECHNOLOGISTS

発行所
 財団法人日本臨床衛生検査技師会
 発行責任者 小崎繁昭
 編集責任者 瀧池正次、小澤正剛、下田勝二、
 山城光俊、及川雅寛、谷口薫、
 高田敦也
 〒143-0016 東京都大田区大森北4丁目10番7号
 TEL (03) 3768-4722 FAX (03) 3768-6722
 ホームページ <http://www.jamt.or.jp>

平成20年度第1回定期総会〈続報〉

前号に続き、総会における質疑応答掲載します。

〈質疑応答〉

★ 大阪府 今井宣子

〈要望〉

○ 先般、発行された記念誌（会史）にミスプリントがありました。迅速な対応をして頂きましたが、記念誌はメモリアル的なものであり、永久保存版として会員から期待されているものであります。次回は、こういうことのないようなチェックシステムを構築していただきたい。

【回答：小崎】

○ 会員ならびに大阪府技師会の会員の方々には、大変不愉快な思いさせて大変申し訳ありませんでした。謝って謝りきれないことで、訂正文、訂正した内容については各都道府県、また配布した方々に送るように指示しましたので、是非また色々な点でご指導頂ければと思います。本当に申し訳ありませんでした。

★ 愛知県 松本祐之

〈要望〉

○ 昨年度から実施されているデータ標準化事業について、3年を目途としていますが、是非3年目以降においても引き続き、日臨技の事業として実施していただきたい。

(理由) データ標準化は3年で完結する事業とは思いません。日臨技の精度管理調査と同様に継続が必要な事業だと思います。また、現在は臨床化学、免疫血清、血液に限って事業を行っていますが、愛知県では標準化事業として全研究班を対象として実施しており、微生物検査研究班、遺伝子・染色体検査研究班、病理検査研究班などではガイドライン、手順書の作成を検討中です。日臨技においても、是非3年以降においても引き続きデータ標準化事業の推進を要望いたします。

○ データ標準化事業において、データ集計作業はシノテスト社の協力によりQCリンクスのシステムを用いて解析を行っておりますが、日臨技独自の全国共通

でリアルタイムに解析可能な解析ソフトの開発ならびにその維持の予算化をお願いいたします。

(理由) データ標準化事業が3年以降継続されるか、予定通り3年で一旦終了するかは別として、各都道府県においては、基幹施設と一般施設のデータの互換性をチェックしていく必要があります。その際に一番問題となるのは、サーベイ結果の集計作業に膨大な労力と時間がかかり、年間事業における集計作業の占める割合が非常に大きいことです。

日臨技独自のリアルタイムに解析可能な解析ソフトが作製されることにより、各都道府県では集計作業に時間をとられることがなくなり、集計結果から乖離施設に対してのアドバイスを事業の主業務として移行できます。

リアルタイムに集計可能なソフトであれば小さな施設で日常の X-R 管理図もしっかり作成できない施設では本システムがその代用となり、その結果を基幹施設が管理することも可能と思います。また、全国共通のソフトを利用することにより、県単独ではなく各都道府県の連携も可能となります。解析ソフトの内容については愛知県からも検査値標準化WGに提案したいと考えておりますので、是非ともソフト開発ならびにソフトの継続維持・メンテナンスの予算化をお願いします。

【回答：小崎】

○ 承りますが、この事業は大事な事業であるとともに、人と時間、お金がかかります。これを継続していけるか、体力を含めて検討して参りたいと思います。JCCLSの理事長と会って、とりあえず3年間をみて次の検討をしましょう。今のように、全項目を行わなくても、あるいはポイントポイントでやれば良い方法もあるのではないかという話も伺っていますので、少し検討させてください。

次ページへ続く・・・

P01:平成20年度第1回定期総会〈質疑応答〉-1
 P02:同-2、平成20年度精度管理調査参加施設
 P03:第46回大韓臨床病理士協会学術集会・臨検小話〈5〉
 P04:「臨床検査科」標榜

P05:ひとくち英会話・第3回 AAMLS 学会
 P06:ズバリ直球勝負〈一問一答〉-1・
 P07:ズバリ直球勝負〈一問一答〉-2・お知らせ〈日本医師会〉
 P08:医療の質・安全学会・編集室